

町の宝もん・元気もんが集合!「第24回Tシャツアート展」

平成元年に始まり、今年24回目を迎えたTシャツアート展。今年は5月2日から6日まで開催され、過去2番目に多い約1450枚が展示されました。2日午後からはお天気にも恵まれ、青い空と白い砂浜の間に広がるTシャツひらひらの風景が、多くのお客さんを魅了しました。



東日本大震災で被災した気仙沼を応援する「カツオ元気Tシャツ」。



鈴から出口まで、町内59地区のお宝をプリントした「宝もんTシャツ」。



町内の商店や農協、漁協、黒潮若手の会、民謡クラブなどの「元気もんTシャツ」。



砂浜では、町長・副町長のネクタイTシャツがお出迎え。



[5/6]ビーさん飛ばし大会には50人が参加。81.44ピーサン(20.36m)の新記録が出ました!(1ピーサン=25cm)



[5/5]砂浜ステージでは、ダンスやフラ、日本舞踊などが披露されました。



[5/2]高知大学の学生サークルBlackWave(ブラックウエーブ)によるキャンドルナイト。



[5/1]初の住民投票で審査員に選ばれた俳優の宮川一朗太さん。強風と大雨の中での審査となりました。

砂浜美術館オリジナル切手ができました

今年のTシャツアート展に合わせ、郵便局株式会社四国支所がオリジナルフレーム切手「砂浜美術館」を作成。5月1日に町役場で贈呈式がありました。

二タリクジラや入野の浜などの写真を使った素敵な切手は、郵便局で80円切手10枚セット・1200円で販売されています。ぜひ黒潮町のPRにご活用ください。



切手を手にするNPO砂浜美術館・村上理事長。

であいの里蜷川が10周年を迎えました

平成14年11月、地区の女性8人で結成した「であいの里」の活動が、今年で10周年を迎え、5月5日、もち投げなどの記念行事が行われました。

であいの里では、平成15年からTシャツアート展のボランティアスタッフの宿泊を受け入れており、この日は、歴代のボランティアや、立ち上げ当時の関係者もお祝いに駆け付けました。

今後も、地域を元気にする活動の継続を期待しています。



砂浜美術館特製のTシャツを着て記念撮影。



今年は、大方高校軽音楽部のライブが行われ、フェスティバルを盛り上げてくれました。

4月下旬から5月上旬まで、坂折地区でカツオのぼりと鯉のぼりの川渡しが行われ、今年も、カツオのぼり51匹と鯉のぼり51匹が伊与木川を彩りました。5月3日には、第5回目となる「カツオと鯉のぼりの川渡しフェスティバル」を開催。地場産品の販売や、紙鯉のぼりのプレゼントなどがあり、多くの家族連れやカップルでにぎわいました。カツオのぼりは、全国ニュースでも取り上げられており、今後ますます人気が出そうです。



高知ならではのカツオのぼり
薫風に乗ってひらひら